

2019年(平成31年)度～2022年(令和4年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立池子小学校】

教育環境の充実		4年間を見据えた取組内容		地域との協働推進	
2019年(平成31年)度		2020年( 年)度		2021年( 年)度	
2022年( 年)度					
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂道での事故(ケガ)が目立つ。地域やPTAと協力して安全教育に努める。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」について校内研究にて取り組んできたが、さらに「学び合う」学習についての教師の指導力向上に努めていく。</li> <li>・少子高齢化の中、池子地区では「子ども会」が廃止となった。地域では「子ども会」に代わる組織を検討している。学校(PTA)が協力しての教育環境を構築していく。</li> <li>・学校の教育活動を積極的に公開するとともに、学校関係者評価委員会・学校評議員会を反映させた学校運営を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」について校内研究を進めてきたが、委託研究のまとめの2年目となる次年度は、池子小教師集団の更なる指導力向上を目指す。</li> <li>・地域の方が非常に協力的で、恵まれた環境にある。今年度も様々な形で、学校安全、学校支援に生かすことができた。</li> <li>・今後は、更に、学校目標やめざす子ども像に向けた、地域との連携を図っていく必要がある。</li> </ul>	0	0
	↓	↓	↓	↓	↓
	年度目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」における校内研究を実施し、教師の指導力を高め、子どもたちの「学び合い」の質を高める。</li> <li>・地域や保護者の学校への関わりを増やし学校理解を深め、地域と連携した開かれた学校づくりを行っていく。</li> </ul>			
	↓	↓	↓	↓	↓
取組計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との協働推進</li> <li>・学校行事の中において、今まで以上の地域教育力の活用を試みる。また、地域に対しても学校として協力できることを実行していく。</li> </ul>				
↓	↓	↓	↓	↓	
期 末 入 力	実践した 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳を中心とした校内研究を、逗子市教育委員会委託研究において、研究講師の指導を受けながら取り組んだ。</li> <li>・地域教育力を活用し、ゲストティーチャー招いての様々な体験活動を行った。</li> <li>・池子体育会やPTAと協力し、地域の方との交流を図った。</li> <li>・学校行事に地域の方を招いたり、地域の行事へ児童や教職員が参加したりすることで地域との交流を深めた。</li> <li>・学校だよりの発行や、学校ホームページを更新することで、情報発信をした。</li> </ul>			
	↓	↓	↓	↓	↓
	達成度 評価	A			
	↓	↓	↓	↓	↓
評価の 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせボランティア、昔あそび、しめ縄作り、稲作、防災教育、いじめ防止など地域からゲストティーチャーを招き指導いただき、地域の方と触れ合いながら様々な学習を行うことができた。</li> <li>・池子体育会やPTAと連携し、地域との交流を深めることができた。</li> <li>・地域の方を学校行事に招いたり、学校だよりの発行や学校ホームページによる情報発信をしたりすることで、学校公開に努めた。</li> </ul>				
↓	↓	↓	↓	↓	
学校の 実態を踏 まえた課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」について校内研究を進めてきたが、委託研究のまとめの2年目となる次年度は、池子小教師集団の更なる指導力向上を目指す。</li> <li>・地域の方が非常に協力的で、恵まれた環境にある。今年度も様々な形で、学校安全、学校支援に生かすことができた。</li> <li>・今後は、更に、学校目標やめざす子ども像に向けた、地域との連携を図っていく必要がある。</li> </ul>				

2019年(平成31年)度～2022年( 年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立池子小学校】

柱Ⅰ		学習指導の充実		4年間を見据えた取組内容		授業改善			
		2019年(平成31年)度		2020年( 年)度		2021年( 年)度		2022年( 年)度	
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の児童は、明るく、やさしい子が多く、子どもらしく素直である。大人を信じ純粋な心を持ち合わせ、規範意識も高く問題行動を起こすことは少ない。反面、何か想定外のことが起きると、自分で解決できず困ってしまうことが多い。</li> <li>・子どもらしい素直な考えやユニークな発想があるにもかかわらず、それを表現することが苦手である。</li> <li>・本校の児童にとって、「自信をもち活動する」「思考を深める」ことが最も大切な課題である。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点(1)「道徳的価値への出合わせ方」では、「行為とその行為を生む心についての分析を通じた道徳的価値の把握」と「問題解決意欲の醸成」に成果がみられたが、「導入の時間配分」が課題となった。</li> <li>・視点(2)「他者の考えとのかかわらせ方」では、「ふり返りによる思考の拡充」に成果がみられたが、①「象徴的な行為の明確化」②「展開時における行為を生む心の道徳的意味付け」③「構造的な板書の在り方」④「思考する時間の確保」の4つが課題となった。</li> </ul>					
	年度目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の「目指す子どもの姿」は「自己を見つめ直す姿」とする。</li> <li>・自己理解のためには「自分自身を振り返ることで自己を見つめなおすこと」と「他者と考えを交流することで自己を見つめなおすこと」が必要であるので、道徳的価値とこれまでの経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深めさせていく。</li> </ul>							
	取組計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善 研究講師を招いての年間7回の授業研究会(内6回目は逗子市教委委託研究発表会)を行い、校内研究を行う。</li> </ul>							
期 末 入 力	実践した 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年間7回の校内研究全体会では、研究授業における「道徳的価値への出合わせ方」(道徳以外の教科では「学習課題への出合わせ方」)と「他者の考えとのかかわらせ方」についてグループごとにワークショップ型の討議を行い、研究講師の助言を受けながら教員個々の授業力向上を目指す。</li> <li>②学び合う学習をとおして子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていくよう、教師のアプローチ(指導技術)についてスキルアップをねらう。</li> <li>③健康教育についてPTAと連携し、食育講演会を開いたり「健康体操」を促したりして、健康に対する意識向上を図る。</li> </ul>							
	達成度 評価	A							
	評価の 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の校内研究は研究主題を「自己を見つめ直す子の育成 ～学び合う学習の創造を通して～」とし、道徳科を中心として専科(音楽・理科)および特別支援の授業研究に取り組んだ。</li> <li>・昨年度の研究において、子どもたちの「根拠を明確にした伝達能力」や「話し合いを深めるための個々の考えを確立することが課題としてあげられたことから、今年度の研究の視点を2つ、①「道徳的価値への出合わせ方」②「他者の考えとのかかわらせ方」とした。</li> <li>・課題に係る児童の実態把握「課題設定」「導入」「問い返し」「板書」「ふり返り」などに工夫し授業実践を研究を重ねていく中で、子どもたちが「自分も友だちも納得できるような考え」を見つげようと努力する姿が多くみられるようになってきた。また、「学び合い」の質が高まってきていると感じられるようになってきた。</li> </ul>							
	学校の 実態を踏 まえた課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点(1)「道徳的価値への出合わせ方」では、「行為とその行為を生む心についての分析を通じた道徳的価値の把握」と「問題解決意欲の醸成」に成果がみられたが、「導入の時間配分」が課題となった。</li> <li>・視点(2)「他者の考えとのかかわらせ方」では、「ふり返りによる思考の拡充」に成果がみられたが、①「象徴的な行為の明確化」②「展開時における行為を生む心の道徳的意味付け」③「構造的な板書の在り方」④「思考する時間の確保」の4つが課題となった。</li> </ul>							

2019年(平成31年)度～2022年( 年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立池子小学校】

柱Ⅱ		支援の充実	4年間を見据えた取組内容	支援環境の充実	
		2019年(平成31年)度	2020年( 年)度	2021年( 年)度	2022年( 年)度
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	・様々な教育的ニーズを抱えている子どもの指導について、保護者の理解・協力を得ながら効果的に対応していく必要がある。	・本年度も保護者と連携し、校内支援体制の充実を図りながら、教育的ニーズのある児童に対して、できるだけ個別の支援を講じてきた。次年度も限られた人的資源の中、様々な教育的ニーズに対応していく必要がある。 ・近年、通常級から特別支援級への措置替えのケースが増えている。個々の児童の発達段階やその度合いに応じての措置替えの時期や実施の有無については、本人ならびに保護者の気持ちを十分考慮しながら、専門的なアドバイスの下、適正な判断が求められる。更に教育相談体制を整えていく必要がある。	0	0
	年度目 標	・児童の実態把握とともに、校内支援委員会の充実を図り、機動的・効果的な対応を目指す。 ・インクルーシブ教育の推進においては、共生社会の実現に向け誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合うことができるようにする。校内研究を通じて、子ども同士が関わり合い、相互理解が深まる教育活動を充実させていく。			
	取組計 画	・支援環境の充実 教育的ニーズのある児童が安心して過ごせる学習集団を育てるとともに、個々の児童のアセスメントを基に「支援シート」を作成し組織的な対応を進める。			
期 末 入 力	実践した 内容	①教育的ニーズをもつ児童の支援について、その進捗状況を校内支援委員会にて定期的にチェックし見直しを行う。 ②教育研究相談センター、子ども発達支援センター、通級指導教室、適応指導教室、児童相談所、県立養護学校などの各種専門機関と連携する。特に、スクールカウンセラーや巡回指導員の指導・助言、児童相談所との情報連携および相談、県立養護学校による地域支援などを受けながら、保護者との教育相談を深め、よりよい児童支援に生かす。 ③通常級に在籍する個別指導が必要な児童について、教育相談コーディネーターの調整の下、限られた援助資源(指導者)を活用して支援にあたる。			
	達成度 評価	B			
	評価の 根拠	・児童や保護者の気持ちに寄り添い関係諸機関と連携し、支援シートの作成や定期的な見直しを通じて支援にあたってきた。 ・限られた人的資源を計画的に活用し、教育相談コーディネーターの調整の下、個別指導が必要な児童に対して、取り出しによる個別対応を行った。 ・保護者との度重なる相談、スクールカウンセラーなどからの指導を通じて丁寧な教育相談を進め、通常級から特別支援級への措置替えを行った。 ・教職員が共通理解をもって個々の児童の指導にあたることできるよう、支援会議を定期的実施し、全校体制にて児童支援を行った。			
	学校の 実態を踏 まえた課 題	・本年度も保護者と連携し、校内支援体制の充実を図りながら、教育的ニーズのある児童に対して、できるだけ個別の支援を講じてきた。次年度も限られた人的資源の中、様々な教育的ニーズに対応していく必要がある。 ・近年、通常級から特別支援級への措置替えのケースが増えている。個々の児童の発達段階やその度合いに応じての措置替えの時期や実施の有無については、本人ならびに保護者の気持ちを十分考慮しながら、専門的なアドバイスの下、適正な判断が求められる。更に教育相談体制を整えていく必要がある。			

2019年(平成31年)度～2022年( 年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取組と評価

【逗子市立池子小学校】

柱Ⅲ		学校組織の充実		4年間を見据えた取組内容		研究・研修の充実			
		2019年(平成31年)度		2020年( 年)度		2021年( 年)度		2022年( 年)度	
期 首 入 力	学校の 実態と課 題	・若手や経験の少ない教員が増える中、教員一人ひとりが経験に合った研修に積極的に参加し専門的力量を向上させるとともに、校内研究を含め学校内におけるOJTを組織的に推進する必要がある。		・逗子市教委委託研究について、来年度は2年目のまとめの期間となる。今年度の取り組みを更に深化し、教員の指導力および児童の学びの質の向上につなげていく。		0		0	
	年度目 標	・教員個々が市教委や県教委等が行う研修に積極的に参加する。 ・校内研究の授業研究を通じて、学校としての研修を充実させる。 ・管理職や総括教諭によるOJTを充実させる。							
	取組計 画	・研究・研修の充実 逗子市教委委託研究の講師を招いての年間を通じた校内研究を行う。 個々の教員の授業や児童指導についての指導・助言を積み重ねていく。							
期 末 入 力	実践した 内容	・逗子市教委委託研究において、道徳を中心とした授業研究を、年間を通して講師の指導を受けながら、取り組んだ。 ・校務分掌の各部においてグループリーダーを中心に組織の見直しを行った。 ・若手教員や経験の浅い教員に対して、日常の指導・助言を行った。 ・行事の精選、事務作業時間の確保、意識改革等を通じて働き方改革を行った。							
	達成度 評価	A							
	評価の 根拠	・逗子市教委委託研究では、講師の指導を受けながら授業改善に取り組み、子どもたちの「学び合い」の質が高まってきたことを感じられるようになってきた。 ・授業研究を通じて、教員同士で協力して学び合うことを重ねる中で、教員チームとしての一体感を味わうことができた。 ・子どもと触れ合う時間を確保するために、行事の精選を行うことや、教員の教材研究の時間を確保するなど、働き方改革につなげることができた。 ・巡回チームや管理職、経験のある教員による日常の指導によりOJTを行うことができた。							
	学校の 実態を踏 まえた課 題	・逗子市教委委託研究について、来年度は2年目のまとめの期間となる。今年度の取り組みを更に深化し、教員の指導力および児童の学びの質の向上につなげていく。		・本校児童の課題である「自信をもち活動する」「思考を深める」ことを、授業の中で、学校行事の中で、地域との関わりの中で、積み上げていく。		・OJTによる若手や経験の浅い教員の育成と、働き方改革をさらに進めていく。			